

# 平和への誓いと友との出会い ～中学生交歓交流事業報告～

問い合わせ 生涯学習課 ☎5800

## 本研修1日目（8月5日）

市内の中学生14人が、沖縄豊見城市の中学生12人を迎え入れ、8月5日から8日までの4日間交流を行いました。広島と沖縄という、遠く離れていながらも共に戦争の記憶が深く刻まれた地で育つ子ども達が、出会い、生活を共にし、友情を深めました。来年は、今年交流した仲間が沖縄で交流し、さらに友情を深めます。

豊見城市の中学生を迎え、錦帯橋散策や鵜飼見学などを通じて徐々に打ち解けていきました。



錦帯橋散策

## 事前研修（7月9日～10日）

本研修を前に、大竹市の中学生の友情を深め、大竹の戦争の歴史を学ぶことを目的に、事前研修を行いました。



探知講堂モニュメント見学

## 2日目（8月6日）

平和記念式典に参列し、原爆が投下された地で祈りを捧げました。また、お好み焼き作りや広島城の見学を通して広島文化や歴史に触れ、マロンの里での川遊びや歓迎会などで親睦を深めました。



平和記念式典参列

## 3日目（8月7日）

原爆資料館の見学や被爆体験講話などを通して、戦争の実情を学びました。また、宮島ではしゃもじ作りや商店街散策、夜はカープ観戦で友情を深めました。



歓迎会での紙太鼓演奏

## 4日目（8月8日）

大竹市の被爆者に対する追悼式を行い、他市町に比べ多くの方が亡くなったことを被爆された方から学びました。空港では最後の時間を楽しみ、来年再会することを約束して別れました。



被爆者追悼式

空港での別れ



## 参加者の声（感想文抜粋）

「被爆された方の生の声を初めて聴きました。資料館には何度か来たことがありますが、見ると聴くでは、また違う戦争と原爆の怖さが伝わってきました。」

「（式典で語られた方々の）思いからは、『戦争は二度としない』『平和な世の中を作っていきたい』という願いや決意が伝わってきました。」

「多くの人が亡くなったのに、（原爆がいつ投下されたか）分からないというのは失礼だと思います。広島の人はもちろん、多くの皆さんに知ってもらいたいと思いました。」

「この世界で生きている僕達は、罪もなく死んでいった人のためにも一生懸命生きなければならぬと思いました。」  
「（私たちが次世代に戦争の悲惨さを伝えなければならぬ）待っていても平和にならないということを教えてくれました。」

## 中学生交歓交流事業とは

沖縄県豊見城市と大竹市が隔年で互いに中学生を派遣し、平和学習や体験学習を通して、広い視野と友情を深めることを目的とした事業です。

対象 市内の中学生（募集年に1・2年生）

※ 次回の募集は、平成30年5月を予定しています。